

独立混成隊二十六旅団砲兵隊部隊略歴

砲兵隊長 梅本文夫

年月日	概
昭一八、一〇	滿洲より南方に転進（迫重ヤ十一大隊）
一九、一	昭南に於て部隊改編し、独立混成隊二十六旅団砲兵隊を編成す
一九、一	「スマトラ」島南部「スマトラ」に転進
至一九、六 至一九、六	南部「スマトラ」 「パナアラム」に在りて防衛中、戦病死一名
至一九、六 至一九、六	南部「スマトラ」 「ベンクレーン」及「マンナ」に在りて防衛中、戦病死三名
二〇、六	昭南島に転進
至二〇、八 至二〇、八	昭南島「ナヤンギー」地区防衛中、戦病死一名
二〇、九	南馬來半島「レンガム」に集結
一〇	馬來「リオリ」諸島「レンパン」島に後駐
二一、六	部隊復員のため「レンパン」島出發
二一、七	鹿兒島港上陸
二一、七	復員完結
	歴代部隊長名 迫重ヤ十一大隊 陸軍中佐 松尾幾男

マニイニ六内

ノ 独立混成方二十六旅団砲兵隊

陸軍火佐 梅本文夫

部隊事情精通者

宮崎県鬼湯郡都波町一八三二一

陸軍大尉 吉川松治

大分県西国東郡西都田村大字大カ一九一

陸軍中尉 渡辺徳芳

山形県南村山郡東村大字久保川三三二

陸軍准尉 栗野忠彦

其の他参考となるべき書類

ノ 独立混成方二十六旅団砲兵隊將校職員表

ノ 同

連名簿

一部

独立混成隊二十六旅団工兵隊部隊略歴

工兵隊長 藤原朝六

年月日	概	要
昭八、一〇、七	六二十三要塞工兵隊編成完結	
〇、三〇	内司港出港、尔後輸送業務	
昭南上陸	昭南上陸	
二、一	スマトラ島の戦進、尔後スマトラ島防衛に従事	
一九、一、八	軍令陸甲ヤ百六号に依り六二十三要塞工兵隊現地復帰	
二、二五	独立混成隊二十六旅団工兵隊編成完結、尔後スマトラ島防衛に従事	
二、二六	ランホン州クルイ附近防衛工事に従事中、下士官一（軍曹梶原豊次）公務死	
二、二六	ランホン州マングダ附近の防衛工事に従事中、下士官一（伍長井生義雄）公務死	
五、一	昭南島の戦進、尔後昭南島防衛工事に従事	兵一（上等兵山下時仿）公務死
六、	終戦	
八、一四	馬來シヨホール州レンガムに於て兵舎修理中、下士官一（伍長堤要）公務死	
九、七	リオ諸島レンパン島に上陸	下士官一（曹長木村精二）戦病死
一〇、二四	レンパン島出帆	
二、五、二七		

五三九
五三〇

名古屋上陸

復員完結

歴代部隊長名

大尉 藤原朝六

部隊事情精通者

福岡県門司市大久保越中山町三丁目

陸軍大尉 藤原朝六

山口県下関市波島木村卯月町林兼社宅

陸軍曹長 山本秀祐

(125)

1746

独立混成方二十六旅団通信隊部隊略歴

隊長代理 三沢一夫

年月日	概要
昭八、二、一九、一	<p>軍令陸甲方一〇六号に依り独立混成方二十六旅団通信隊編成下令 編成完結、尔後南部ヲスマトラレ島警備</p>
自一九、一、八 至二〇、六、一四	<p>戦病死 兵一 転入 南方軍總司令部より 内地(坂五ニ補)より 将校 二 兵 二一</p>
	<p>転出 方二十五軍司令部に 方四十七師団 将校 一 下士官兵五 兵 一</p>
	<p>南方軍憲兵教習隊に 南方軍總司令部兵站監部に 兵 二 下士官 三</p>
二〇、六	<p>一部(将校一 下士官兵四六)を南部防衛隊通信隊要員とし南部ヲスマトラレ 島に残置し、主力は昭南島に転進、尔後同島警備</p>
自二〇、六、一五 至二〇、八、一三	<p>戦病死 兵一(南部防衛隊通信隊要員として南部ヲスマトラレ島に残置中のも の) 転出 電信方一連隊に将校一、下士官兵四五 (南部防衛隊通信隊要員として南部ヲスマトラレ島に残置中のも</p>

マシイニヤ

二〇、八

終戦

南方軍第一陸軍病院に入院 矢五

二〇、九

一部(将校一、下士官共二一)を部隊保有兵器資材、馬匹等連合側に引渡しのたの「シンガポール」島「チヤンギー」に残置し、主力は「マレイ」 「ジヨホール」州「レンガム」に移駐

二〇、一〇

南方軍三陸軍病院に矢二、入院の為転出
隊長土藤大尉は南方軍司令「四九」号に依り「レンガム」に残留し、部隊主力(将校三、准士官一、下士官六七)は「スマトラ」島「リオリ州」 「レンパン」島に移駐

二〇、一一

南方軍三陸軍病院より矢一、退院転入
南方軍復員に関する規程(イ規程)「二十三」条に依り南方軍七方面軍刑務所より兵一転入

二一、二

南方軍「五三」号に依り南方軍二陸軍病院より矢一、南方軍一陸軍病院より下士官一、矢四入院

二一、三

「カ」三十四野戦輸送司令部より矢一転入
「マライ」派遣「三」日本技術中隊編成要員として下三、矢一「レンパン」島出発
内地帰還(復員)の為矢一「レンパン」島出発

二一、四

「カ」三十四野戦輸送司令部より矢一転入

二一、五

年月日	概要
昭二六 二一六	内地帰還(復員)の為下士官二コレンパン島出発 内地帰還(復員)の為部隊主力(将校三 准士官一、下士官共六八)コレンパン島出発
二一七	復員完結 歴代部隊長名 大尉 工藤 芳徳 部隊事情精通者 山形県東村山郡金井村大字江俣三番地才三号 陸軍中尉 三沢 一夫 青森県弘前市大字富田字大野一五番地ノ九号 陸軍中尉 武内 正保 岩手県神宮郡八重畑村大字関口才一四番地割一回番地 陸軍准尉 藤根 矢平

マライニ七外

独立混成隊第三十五旅団司令部略歴

旅団長 西島 剛

年月日	概要
昭一、九、三、一〇	軍令陸甲第一〇六号により南ツアングマンレ島ツポートブレイアレに於て旅団編成完結
四、三〇	大隊（独立歩兵第一五六大隊大ツゴコレ島に派遣先に独立歩兵第一五五大隊を大ツゴコレ島に
一、九、三、一	近衛歩兵第五連隊第一大隊をツスタヌワドサウンドレに派遣しあり
一、八、九、三〇	第一〇一次対英機動部隊へ航空機ノ戦斗、戦死一
一、九、五、三〇	独立歩兵第一五七大隊をツシンガホールレに於て軍直轄せらる独立歩兵第一
二、〇、不詳	五一大隊を独立混成隊第三十六旅団長の指揮下に入らしめる
昭二、〇、五、三〇	<p>戦死一、戦傷二</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>一、陸軍中將 井上 芳 佐</p> <p>二、同 少将 佐 藤 為 惣</p> <p>三、同 大佐 西 島 剛</p> <p>部隊事情精通者</p>

(109)

1750

年月日

概

要

東京都大森区田園調布ニノ一〇〇〇

奥田 武彦

矢野泉飾磨郡糸引村兼田五六〇

宮 沢 晴夫

岩手県裨貫郡内川目村ヲニ三地圖乙ノ一〇

桐田 正三郎

長野県上伊那郡伊那町大字伊那三三四六

中村 益夫

参考

前記の外赴任途中後送患者後送途中海上警戒勤務中に戦死行方不明となりたる者あるも不詳

マライニハ内

独立混成隊三六水田
独立歩兵隊二五一大隊部隊略歴

大隊長 野沢統司

年月日	概	要
昭五、三、一〇		軍令陸甲ヲ百六号臨時編成並に才二百五十次復帰下令に依り南コアンダマンレ島コポートヲレーヤレに於て編成並に復帰完結
二、九		通信班王垣火尉以下四十六名旅団通信隊未到着に付司令部勤務大隊に復帰す
昭一、九、三〇		(編成表附表才一將校職員表附表才二の如し)
昭一、九、三〇		南コアンダマンレ島防衛
昭一、九、三〇		(主要なる事項別紙才一の如し)
昭一、九、三〇		才一次対突機動部隊戦斗参加
昭一、九、三〇		戦進の急(才一梯団野沢火佐以下約四〇〇名)南コアンダマンレ島コポートヲレーヤレ出帆
昭一、九、三〇		才カーニコバルレ島コマラツカレ上陸
昭一、九、三〇		才ニ梯団(姪田大尉以下約三〇〇名)戦進の急南コアンダマンレ島コポートヲレーヤレ出帆
昭一、九、三〇		才カーニコバルレ島コバツサーレ上陸
昭一、九、三〇		才ニコバルレ諸島の防衛

(11)

1752

年月日	概	要
至始 至終 二〇、四、三〇 二〇、五、四	(主要なる事項別紙ヲニの如し) カニ次対英機動部隊戦斗参加	
至始 至終 七、一五 二〇、八、一四	カ三次対英機動部隊戦斗参加 終戦	
至始 至終 二〇、一、一八 二〇、一、三〇	(編成表附表カ三将校職員表附表カ四の如し) 「レンパン」島移駐の急回梯田三区分「カーニコバル」島出帆 (移駐の細部別紙カ三の如し)	
至始 至終 二〇、一、二二 二〇、一、三三	大隊全員「レンパン」島北部集結完了	
至始 至終 二、六、一 二、六、二	独立混成カ三十六旅団の指揮下に在りて自隊兵舎、倉庫、兵站、病院病棟、指 令所兵舎、同倉庫の建築及道路、橋梁、投橋の構築並に環圍の開拓等に任ず 「レンパン」島宝港に於て「リバテ」船(ヘンリーホアエト)に乘船 「レンパン」島宝港出帆	
至始 至終 六、一四 六、一五	名古屋港に上陸 名古屋に於て復員完結 歴代部隊長名 少佐 野 沢 統 司	
	部隊事情精通者	

秋田県雄勝郡湯沢町金池町一

陸軍大尉

蛭田 武治

埼玉県北葛飾郡早稲田村大字町後三三九ノ一

陸軍大尉

豊田 敏夫

長崎県南松浦郡青方町青方郷一三一八ノ一

陸軍准尉

川 淵 義一

独立歩兵二五二大隊部隊略歴

大隊長代理 田中利夫

年月日	概要
昭九、三、二七	軍令陸甲ヲ百六号臨時編成
三一〇	ヲ二百五十次復帰下令に依リコアンダマンレ群島南コアンダマンレ島に於テ南西ヲ一守備隊歩兵ヲ二大隊の全部及南西ヲ一守備隊通信隊の半部並緬甸軍よりの一部兵力を以テ編成を完結
三、一〇	独立混成ヲ三十五旅団長の隷下に入る
一九、三、三	尔後コアンダマンレ群島の防衛 南コアンダマンレ島コホートブレイヤレを出帆せるヲニ高良丸に便乗しありレ近衛ヲニ師団ヲ四野戦病院コアンダマンレ患者療養所よりコスマトラレ島同病院主カへ後送の患者兵四名附添衛生兵一名計五名は、
三、五	コグレートニコバルレ東岸、東径九三度五八分、北緯六度五八分附近海域に於テ敵潜水艦の魚雷攻撃を受け、同船沈没生死不明となり、尔後陸海軍航空機及ヲ十揚陸隊所屬の船舶に依リ搜索せるも判明せず、生死不明のまま臨時編成下令に依リ転属となりたるも
二、一、二六	戦死と認定さる
二〇、一、四	コスマトラレ島離島間海上軍隊軍需品輸送の船舶警備兵として服務しありたる

マテ二九内

兵一名は、同船田の「スマトラ」島「パンカラン・ブラタン」港に碇泊中、敵戦爆連合約六十機の襲撃に遭ふ同時機関銃射手たりし同兵は、船橋上に於て戦死、海中に転落す。戦斗終了後所在部隊の協力を得て捜索せるも屍体発見するに至らず。

二〇、二二五

赴任のため馬来「マナン」港を出帆せし陸理部見習士官一名は

二六

一四、〇〇北緯一一度〇分、東経九五度五〇分附近海面に於て乗船、海軍冷凍船「天塩丸」の敵駆逐艦二隻及び「B」三機に依り砲爆撃に遭ひ沈没せる際生死不明となり、尔後海軍航空機に依り捜索せるも判明せず

六、三三

戦死確認せらる

二〇、五二三

離島向輸送船警乗兵下士官二名、兵四名は「グレート・ニコバル」島南端海面に於て敵「B」四機の砲爆撃を受け、乗船「茶丸」は沈没、生死不明となり、尔後捜索せるも不明のまま終戦となる

二〇、一三、一六

偶々任「ナンコー」リ独立混成隊三十七旅団船抛工兵隊の大発動艇「グレート・ニコバル」島に到りたる際漂着生存しありし兵一名救助せらる

二二、一、三〇

部隊に收容、同人に付調査の結果他に五名の戦死確認なり

尚右六名の戦死認定に關しては、終戦後、陸軍留守業務部要員として帰還せし陸軍准尉中村益夫に依り処理せられある筈
救助せられたる兵一名の帰投に關する書類は「二十九軍司令部」まで提出済

年月日	概	要
昭三〇、六一三	<p>矢一名離隊逃亡、部隊は一部の兵力を以て捜索を実施せるも判明せず、終戦に至る</p> <p>島外逃亡及敵手に入りたる虞れ全然なく、死亡せるものと判明せらる</p> <p>離隊逃亡者嗣書は前記中村准尉携行、尚一部を独立混成隊三十五旅団司令部に提出しあり</p> <p>部隊編成以復員完結（部隊主力）までに於ける損耗</p> <p>人 終戦迄</p> <p>戦死</p> <p>見習士官一 下士官三 矢九 計一二（戦死認定二を含む）</p> <p>戦病死</p> <p>下士官四 矢一九 計二三</p> <p>逃亡</p> <p>矢一 計一</p> <p>計 三六</p> <p>又 終戦後</p> <p>戦病死</p> <p>矢七 計七</p>	

3. 合計 四三

(官等区分は死亡前の官等に依る)

終戦後戦犯容疑者として「シンガポール」に抑留せられる者

大隊長 陸軍火佐 村上 保

陸軍主計曹長 龜井 秀雄

陸軍軍曹 林 保雄

同 奥村 仙一

陸軍上等兵 初冠 嘉三

同 松浦 治

計 六名

歴代部隊長名

火佐 波多江 次男

火佐 村上 保

部隊事情精通者

兵庫泉飾磨郡米引村兼田五六〇

陸軍大尉 宮沢 晴夫

宮城泉志田郡松山町長尾兵庫屋敷六

陸軍大尉 木内 貴一

年月日

概

要

滋賀県伊香郡南富永村大字東阿内七三五

陸軍大尉 山岡万寿男

埼玉県北埼玉郡羽生町大字羽生四二四一

陸軍大尉 松本達雄

長野県下伊那郡山本村竹佐二九三ノ一

陸軍大尉 肥後角人

東京都葛飾区亀有町二ノ一五〇七

陸軍中尉 大野晴里

鹿児島県川内市青山町五〇一〇

陸軍准尉 坂下栄藏

新潟県佐渡郡加茂村大字椿三五

陸軍軍曹 中村竹頼

マニイ三〇大

(118)

1759

独立歩兵第二百五十三大隊部隊略歴

大隊長 原 志良

年月日	概 要
昭一九、三、一〇	<p>編成改正完結</p> <p>南コアンダマンレ島防衛任務に従事</p>
一九、二、五	<p>輸送船カニ高良丸に乘船大コニコバルレ島附近海域に於て生死不明となりたる左記四名は</p>
二〇、一、六	<p>独立混成方三十五旅団長に依り戦死と確認せられたり</p> <p>左 記</p> <p>陸軍上等兵 上田 一二三</p> <p>同 一等兵 辻 田 貞 三</p> <p>同 同 東 尾 正 一</p> <p>同 同 森 本 勝 造</p>
二〇、五、五、三二	<p>カ十揚陸隊長の指揮下に在りて海上輸送に任じありし左記の者</p> <p>大コニコバルレ島南端海域に於て敵潜水艦の攻撃に依り生死不明となれり</p> <p>左 記</p> <p>陸軍兵長 山 本 惣 一 郎</p>
二一、一、	<p>コリオレ諸島コレンパンレ島に転進</p>

年月日	概要
昭三、五 五、	内地帰還の為「レンパン」島出發 名古屋港上陸 復員完結 歴代部隊長名 一、中佐 清本 卓一 (昭二〇、六、一〇、大佐に進級) 二、大尉 原 志良 部隊事情精通者 兵庫県有馬郡大沢村日西原三ノ五二 刈上 敏夫 大坂市大正区三軒家二ノ五六 中川 実 兵庫県三原郡澁村拂川組 奥村 太一 兵庫県武庫郡本庄村深江九四 櫻井 憲三

(110)

1761

三十九

独立歩兵第二百五十四大隊部隊略歴

大隊長 渡辺 進

年月日	概	要
昭一九、三、一〇	独立歩兵第二百五十四大隊編成	
至二〇、四、三〇	糸後アアンダマンレ群島の防衛	
至二〇、五、六	第二次対英機動戦中	
至二〇、五、一四	針糸山附近に於て第一戦死	
至二〇、五、一七	第三次対英機動戦中	
至二〇、五、一〇	戦病死十六名	
	歴代部隊長名	
	火佐 渡辺 進	
	部隊事情精通者	
	愛知県名古屋市中千種区仲田本通四ノ一〇	
	陸軍大尉 三輪 大蔵	
	兵庫県神戸市林田区五番町一ノ七四番屋敷	
	陸軍大尉 大谷 勝司	
	埼玉県南埼玉郡三箇村大字三箇四〇〇六	
	陸軍准尉 小林 礼郎	

(121)

1762

マヨイ三一内

年月日

概

要

茨城県真壁郡上野村大字赤浜七三〇ノ一

陸軍准尉

北嶋

二

独立歩兵オ二百五十五大隊部隊略歴

大隊長 増田良作

年月日	概	要
昭一八、一三、 一九、三、	当時歩兵オ二百十連隊たりし大隊は南方転進の爲北支那を出發 アンダマン群島大ココ島上陸	
一九、二、二七 三、一〇	尔後同島防衛 独立混放オ三五旅団臨時編成下令 編成完結	
八	アンダマン群島、南アンダマン島に転進 同島南部防衛	
至一九、三、一〇 一九、一〇、一九	戦病死 下士官兵 四二 入院患者にして後送中ニコバル諸島ナンコウリ島附近の戦斗に於て兵二戦死	
至二〇、八、一四 至二〇、八、一五	戦病死 下士官兵 二四 戦病死 下士官兵 一九 北部レンパン島に転進	
二一、一	南馬來軍司令官の指揮下に入る 戦病死 下士官兵 一	
至二二、五、一一	入院患者にして戦後後消息不明なるもの別表の如し	

(23)

1764

年月日

概

要

歴代部隊長名

火佐 増田 良作

部隊事情精通者

山梨県中巨摩郡救島村中下糸一三四九

陸軍大尉

関

真

瑛

茨城県真壁郡養蚕村深見

陸軍曹長

篠崎

政

久

東京都品川区五反田三ノ四九

陸軍曹長

加藤

久

雄

(130)

1765

独立歩兵ヲ二百五十六大隊部隊略歴

大隊長 三輪敏夫

年月日	概	要
昭一九、三、一〇	軍令陸甲オ一〇六号により編成改正を令せられ、前部隊たるヲ三十二師団歩兵	
四一四	アンダマン群島ポートブレヤ上陸	
至一九、九、一	アンダマン群島大ココ島防衛	
自一九、九、二	アンダマン群島ポートブレヤ附近防衛	
至二二、八、一四	此の間対英機動部隊戦斗二回ありたるも損傷なし	
	歴代部隊長名	
	一、大尉 大西 沢市	
	二、大尉 三輪 敏夫	
	部隊事情精通者	
	神奈川保定柄下郡真鶴町五九九	
	陸軍中尉 青木 光行	
	千葉県山武郡横芝町鳥食上一〇五七	
	陸軍中尉 大津 清志	

(126)

1766

ニ
ス
ニ
ニ
ミ
ニ
タ

	年 月 日
<p style="text-align: right;">千葉塚君津郡小糸村兼瀧二八三 陸軍中尉 兼田莊一</p>	<p style="text-align: center;">概</p> <p style="text-align: center;">要</p>

(126)

1767

独立混成方三十五旅団工兵隊部隊略歴

工兵隊長 細見 宏

年月日	概要
昭九、三	滿洲回東安省東安にて編成完結 (特校四名 下士官兵 一七六名)
昭九、五 二九、六	滿洲回東安省密山区の警備 滿洲より戦進
一九、一〇	尔後 馬球スマトラ警備 南コアンダマンに島に戦進
昭九、一〇 二〇、六	尔後 同島防衛 英教甲部隊を攻三回に及ぶも全員支障なし 特校一名 下士官兵 四四名
昭九、六 三〇、三	昭南防衛司令部に派遣 防衛中 戦病死者もの 七名 日本技術方四中队要員として 下士官以下一三名 馬來派遣 歴代部隊長名 大尉 細見 宏

(127)

1768

三三三

年月日	概
<p>部隊事情精通者</p> <p>神戸市葦合区熊内町六丁目五拾番</p> <p>滋賀県蒲生郡朝日野村大字鈴式百番</p> <p>奥田金五郎</p> <p>松浦 正</p>	
要	

6251

(128)

1769

独立混成第六十五旅団通信隊部隊略歴

隊長 陸軍大尉 奥田武彦

年月日	概	要
昭和三十一 五、三	満洲東安に於て編成完結	
昭和三十一 五、八	東安に在りて出動準備並に同地附近の警備	
五、九	南方進出のため東安出発	
五、二〇	鮮南回境回廊通過	
五、二四	釜山港出帆	
五、三六	閉司港着	
五、三六	同港出帆	
六、四	台湾高雄港着	
六、一〇	同港出帆	
昭和三十一 六、三六	昭南上陸 同地附近の警備	
昭和三十一 六、三六	昭南出発	
昭和三十一 六、三〇	ホートセツテンハム着	
昭和三十一 六、五	同港出帆	
昭和三十一 六、八	「テロクロボン」着	
昭和三十一 六、一三	同地出発	

(49)

1770

マライ三三内

年月日	概
昭一九一〇一三	1ベラワンに着
一〇一八	同地出発
一〇二〇	1オレレに着
一〇三一	同港出帆
昭一〇二二一七	1アンダマン群島1ポードブレイア上陸同地附近の防衛
二二一三	部隊主カ1アンダマン群島より1レムバン集結の為転進
昭二二二一	1レンバン(北部)に在りて諸作業に従事す
	歴代部隊長名
	1 陸軍中尉 眞 澄 徳 藏
	2 陸軍大尉 奥 田 武 彦
	部隊事情精通者
	東京都大森区田圃調布二丁目一〇〇〇
	陸軍大尉 奥 田 武 彦
	埼玉県大里郡覚村大字玉作二〇一
	陸軍中尉 柿 沼 角 太 郎
	長野県東筑摩郡朝日村古見二六二六
	陸軍准尉 塩 原 安 隆

母

備考

添付書類左の如し

ハ 部隊略歴表

一部

ニ 連名箋

一部

三 職員表

一部

(131)

1772

独立混成オ三十六旅団司令部部隊略歴

年月日	概	要
昭五、三、一〇	<p>軍令陸甲オ百六号に依り、ニバル諸島カーニ^コバル島に於て、オニ歩兵団司令部の全部及南西オニ守備隊、独立守備歩兵オ六十六大隊、歩兵オ八連隊カーニ大隊の各一部を以て編成完結</p>	
三、一〇	<p>オニ十九軍司令官の隷下に入る</p>	
至一六、三、一〇	<p>オニ歩兵団司令部は瓜哇攻勢戦、ガ島作戦、比島、瓜哇の防衛に従事す</p>	
至一六、三、一〇	<p>ニコバル諸島カーニニユバル島に位置シオニ九軍に隷属シ、海軍オ十四警備隊と協力シ、同島及コバツチマルブレ島の防衛に従事す</p>	
至一六、三、一〇	<p>オニ一次カーニニユバル島対英機動部隊戦に参加</p>	
至一六、三、一〇	<p>オニ二次 同 右</p>	
至一六、三、一〇	<p>オニ三次 同 右</p>	

(132)

1773

独立歩兵カ二百五十八大隊部隊略歴

年月日	概要
昭九、三、一〇	軍令陸甲カ百六号に依りニコバル諸島カーニバル島に於て南西カニ守備隊大部を以て編成完結
三、一〇	独立混成カ三十六旅団長の隷下に入る
至一、九、三、九	南西カニ守備隊は仏印進駐、昭南攻畧戦、スマトラ防衛に従事、ニコバル諸島カーニバル島の防衛に従事す
至一、九、三、一〇	ニコバル諸島カーニバル島アロンシ附近に位置し、独立混成カ三十六旅団に隷屬し、同島カニ地区の防衛に従事す
至一、九、三、一〇	カ一次カーニバル島対英機動部隊戦に参加
至二、〇、五、四	カ二次 同 右
至二、〇、七、一五	カ三次 同 右

(133)

1774

独立歩兵ヲ二百五十九大隊部隊略歴

年月日	概要
昭五、三、一〇	軍令陸甲ヲ百六号に依り、ニコバル諸島カーニコバル島に於て、独立守備歩兵ヲ六十六大隊の大部を以て編成完結
三、一〇	独立混成ヲ三十六旅団長の隷下に入る
自一、九、三〇、九〇	独立守備歩兵ヲ六十六大隊はニコバル諸島カーニコバル島の防衛に従事す
昭五、九、三〇	ニコバル諸島カーニコバル島、パラパティレに位置し、独立混成ヲ三十六旅団に隷屬し、海軍ヲ十四警備隊と協力し、同島ヲ三地区及ヲ二飛行場附近の防衛に従事す
昭二、九、一〇、二七	カニ次、同右、ニコバル島對英機動部隊戦に参加
昭二、五、四、三〇	カニ次、同右
昭二、〇、七、一〇	カニ次、同右

独立歩兵ヲ二百六十大隊部隊略歴

年月日	概	要	
昭九、三、一〇	<p>軍令陸甲ヲ百六号に依りニユバル諸島カーニユバル島に於て歩兵カ八連隊カ一大隊の大部を以て編成完結</p>		
三、一〇		<p>独立混成カ三十六旅団長の隷下に入る</p>	
昭九、三、一〇			<p>歩兵カ八連隊カ一大隊はニユバル諸島カーニユバル島の防衛に從事す</p>
昭九、三、一〇	<p>ニユバル諸島カーニユバル島カ一飛行場附近に位置し、独立混成カ三十六旅団に隷屬し海軍カ十四警備隊並戦車カ十五連隊、独立歩兵カ二百五十一大隊と協力し同島カ一地区及カ一飛行場附近の防衛に從事す。</p>		
昭九、三、一〇		<p>カ一次カーニユバル対英機動部隊戦斗に参加</p>	
昭九、三、一〇			<p>カ二次 同 右</p>
昭九、三、一〇	<p>カ三次 同 右</p>		

独立混成オ三十六旅団砲兵隊

年月日	概要
昭五、三、一〇	軍令陸甲オ百六号に依り満洲国牡丹江省滾河に於て追連オ十二大隊、独立山砲
三一〇	オ四連隊、山砲オ九、オ十五連隊、歩兵オ十四、オ四十、オ七十連隊の各一部を以て編成完結
至一九二五、二、二〇	独立混成オ三十六旅団長の隷下に入り、
至一九二九、九、二	尔後同地附近の警備に従事すると共に任地への輸送を準備す
至一九二〇、五、四〇	釜山——下関——マニラ——路南——スマトラを経る任地に至り、輸送業務に従事す
至一九二〇、七、一五	ニユバル諸島カーニユバル島奥台に位置し独立混成オ三十六旅団に隷属し、同島オニ地区並東山附近の防衛に従事す
	オ三次カーニユバル島対英機動部隊戦に参加
	オ三次 同 右

マニラ三四ト

独立混成カ三十六旅団工兵隊部隊略歴

年月日

概

要

昭和三〇

三、一〇

昭和三〇
一、五、二〇

昭和三〇
九、二、二

昭和三〇
七、一五

軍令陸甲ヲ百六号に依リ滿洲国牡丹江省終陽に於て工兵カハ、カ九、カ十八連
隊及独立工兵カ九連隊各一部を以て編成完結

独立混成カ三十六旅団長隷下に入り

尔後同地附近の警備に従事すると共に任地へ輸送を準備す

釜山——下関——マニラ——昭南——スマトラを経て任地に至り、輸送業務に
従事す

ニユバル諸島カニニユバル島與台に位置し、独立混成カ三十六旅団に隷屬し、
同島カニ地区並東山附近の防衛に従事す

カニ次カニニユバル島對英機動部隊戦斗に參加
カニ次 同 右

1778

(37)

0571

独立混成隊第三十六旅団通信隊部隊略歴

年月日	概要
昭和三一	<p>軍令陸甲ヲ百六号に依り滿洲国牡丹江省綏陽に於てカ八師団通信隊、電信カ六連隊、歩兵カ十七連隊の各一部を以て編成完結</p>
三一	<p>独立混成隊第三十六旅団長隷下に入り</p>
昭和三二	<p>尔後同地附近の警備に従事すると共に任地への輸送を準備す</p>
昭和三二	<p>釜山——下関——マニラ——昭南——スマトラを逐て任地に至り、輸送業務に従事す</p>
昭和三三	<p>ニューバル諸島カーニューバル島中台に位置し、独立混成隊第三十六旅団に隷屬し、海軍通信隊と協力し島外、島内の通信連絡並同島防衛に従事す</p>
昭和三三	<p>カ二次カーニューバル島対英機動部隊戦斗に参加</p>
昭和三三	<p>カ三次 同右</p>

マニラ三五内

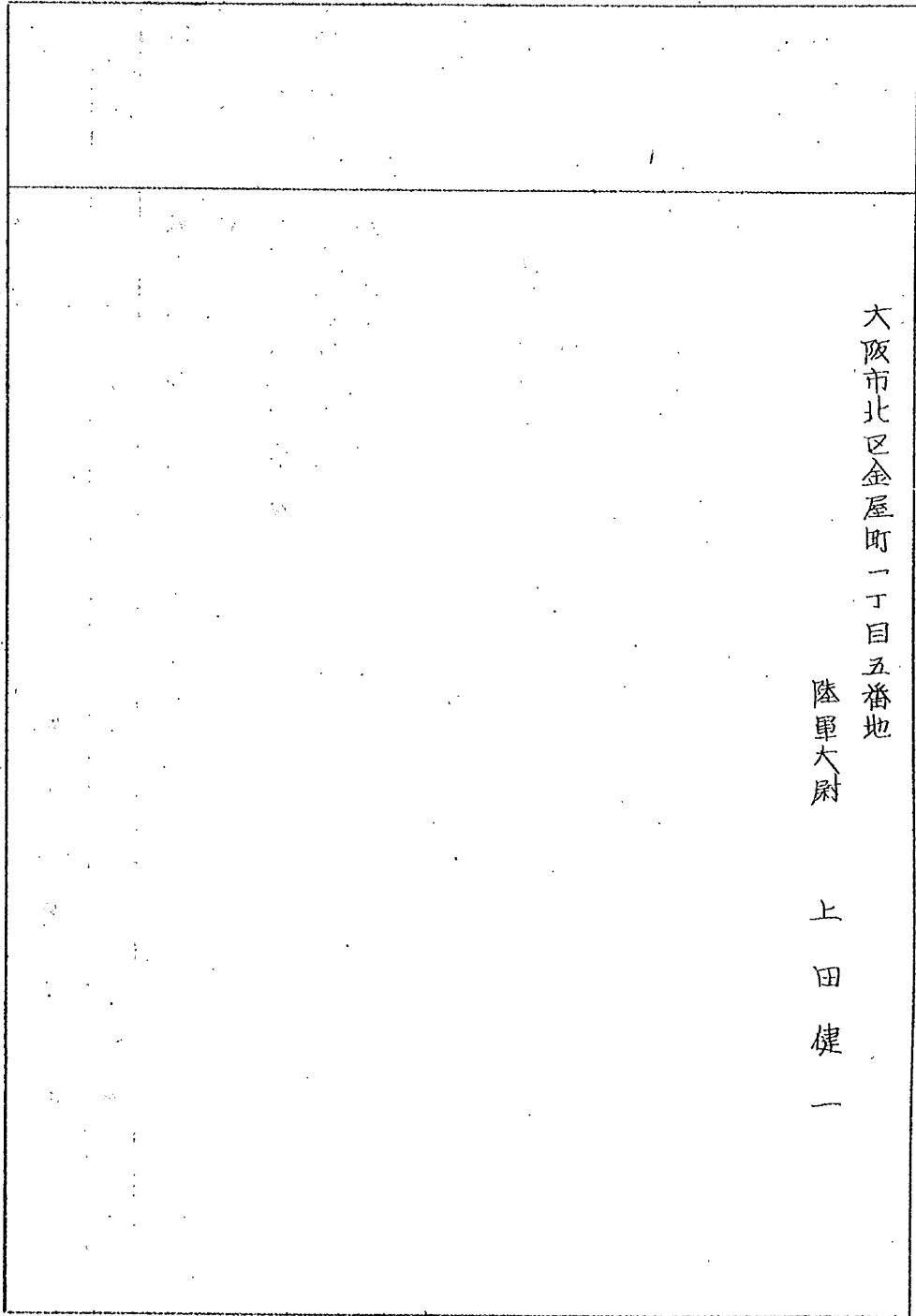
独立歩兵オ二百五十八大隊部隊略歴

年月日	概要
昭一、三、一〇	コニコバルレ島に在りて独立歩兵オ二百五十八大隊を編成、 尔後引続コニコバルレ島防衛
六、一五	コスマトラレ島出発のため抜帆船幸丸に乘船、航行中東径九四度四八分、北緯 六度一七分（コロンドレ島西北方）の海上に於て敵潜水艦の攻撃を受け下士官 一名、兵一名戦死
六、一七	コニコバルレ島に於てコマリアレ熱帯熱に因り兵一名戦病死
一〇、一七	オ一次コカーニユバルレ島對英機動部隊戦斗中コカーニユバルレ島コアロンレ に於て敵巡洋艦の砲弾に依り兵一名戦死
一〇、一五	コニユバルレ諸島コカモルタレ島コナンコウリレ港に於て敵米英回艦上機と 戦斗中、下士官二名、兵二名戦死
一、一三	コニユバルレ諸島コカモルタレ島コナンコウリレ港に於て敵米英回艦上機と 戦斗中、受傷後コスマトラレ島コアチエ州ココタラジアレ近衛オニ師団オ四 野戦病院に於て兵一名、戦場死
歴代部隊長名	
陸軍大佐 新岡長太郎 陸軍大尉 松永明敏	

独立歩兵第二百六十大隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一八、一〇、	<p>カ四師団歩兵カ八聯隊カ一大隊として動員完結、カスマトラレ旅遣、カ来カスマトラレ警備</p>	
一九、二、	<p>鳥峽警備カ一大隊としてカニコバルレ群島カカーニコバルレ島に転遣、カ来カカーニコバルレ島警備</p>	
三、	<p>軍令陸甲カ一〇六号に依り編制改正 独立歩兵カ二百六十大隊に転属</p>	
至一九、一〇、一七	<p>カ一次カカーニコバルレ島対英機動部隊戦斗に於て兵一戦死す</p>	
至一九、一〇、二二	<p>カ二次カニコバルレ島に於て兵一戦死、兵一戦傷死す</p>	
至一九、一〇、二五	<p>カ三次カニコバルレ島に於て兵一戦死す</p>	
至一九、一〇、二七	<p>カカーニコバルレ島警備中、戦病死兵二、戦死兵一、公傷に依り再起不能となりたる者下士官一なり</p>	
歴代部隊長名	<p>カ池本義松</p>	
部隊事情精通者	<p>カ本島原佐伯郡大竹町字油美五三〇</p>	
陸軍火佐	<p>カ池本義松</p>	

三ノ宮



大阪市北区金屋町一丁目五番地

陸軍大尉

上田健一

(14)

1782

第十九軍独立混成方三十六旅団砲兵隊部隊略歴

隊長 福井靖人

年月日	概
昭一九三 五 至一九三 八	満洲に於て独立混成方三十六旅団砲兵隊編成 満洲より転進 尔後ニユバル諸島防衛 興敏勤部隊来攻三回 歴代部隊長名 少佐 塩田 三 郎 大尉 福 井 靖 人 部隊争情精通者 玄島孫安佐郡戸田村字矢口蓮教寺内 陸軍大尉 福 井 靖 人 京都市中央区生々朱崔町八 陸軍中尉 延 崎 敏 郎

マライ 三六内

独立混成隊三十六旅団
独立野戦高射砲隊二十一中隊部隊略歴

隊長 佐々木正之

年月日	概要
昭一六、七、三三	編成完結（官十一ノ七動員）
昭一六、七、三三	立川より北海道帯広飛行場の防空警備
昭一六、七、三三	東京港出帆、海南海口飛行場の防空警備
昭一六、七、三三	大東亜戦争参加
昭一六、七、三三	北部馬來上陸作戦に於てケランタン州コタバル附近上陸戦斗して戦死者五名（当時オ十八師団佯美支隊に配属せらる）コタバル飛行場占領後同地の防空警備
昭一七、一、二八	泰國コハヂヤイレに集結
昭一七、一、二八	陸路出発
昭一七、一、二八	南部馬來コバツアナムに在りて軍需積所の防空に任じ
昭一七、一、二八	コシンガポールに攻略作戦に参加、人員損傷なし
昭一七、一、二八	コシンガポールに飛行場の防空警備、人員損傷なし
昭一七、一、二八	コシンガポールにケツペルに沿地の防空警備（オ二十五軍直轄）
昭一七、一、二八	コスマトラに島推進作戦の急輸送船山里丸に乗船、昭南港出帆
昭一七、一、二八	コマラツカに海峡北緯三度二七分、東経九十九度四十九、二分の海上に於て魚雷

年月日	概
昭和十八年六月 一八、三三	<p>攻襲を受け、將校一、准士官一、下士官六名、兵十七名戦死、兵一名戦傷死 此為那南港帰着、尔後復旧業務</p> <p>「スマトラ」島「パレンバン」の防空警備</p> <p>中隊先發隊の川上隊中、兵三名南東丸上に於て対空战斗中戦死</p> <p>「ニコバル」諸島推進作戦参加の為「スマトラ」島「ベラワン」港出帆（オニ十五軍直轄、南西オニ守備隊長指揮下）</p> <p>「ニコバル」諸島「カーニコバル」島上陸</p> <p>尔後同島枢要地区の防空警備</p>
一九三、一〇 一、二七	<p>新たに同島に進駐し来たる独立混成オ三十六旅団長の指揮下に入る</p> <p>「カーニコバル」島オ一次対英機動部隊战斗中於て技術下士官二名、兵五名、戦死、兵一名戦傷死、負傷者二十三名</p>
至 一九三、一〇、一八 至 一九三、一〇、一八	<p>オ二次、オ三次対英機動部隊战斗及軍独機又は其の他偵察機等に対する対空战斗十数次に至るも戦の損傷皆無（此の間戦病死者下士官一名、兵一名あり）</p> <p>至終戦</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>大尉 石松 政 敏</p> <p>大尉 佐々木 正 之</p>

三三三

部隊事情精通者

神奈川県藤沢市辻堂五七九三

陸軍大尉

山田喜代志

山口県下関市後田一六三

陸軍准尉

池水秀夫

埼玉県南埼玉郡桜井村大里(鷺林財吉方)

陸軍少佐

山本喜久夫

1881

(145)

1786

独立混成方三十七旅団司令部部隊略歴

旅団長 皆伝 武久

年月日	概
昭一、三、一〇 三、一一	軍令陸甲オ一〇六号により独立混成方三十七旅団編成完結 旅団長佐藤少将任地ニコバル諸島「カモルタ」島上陸 在島独立歩兵オ二六ニ大隊 二六四大隊 建築勤務 方四十七中隊一分隊、方十四師団方三連兼輸卒隊一分隊、電信方一連隊一分隊 及海軍部隊を併せ指揮し、 「メンコウリ」地区の防衛に任ず
三、一八	独立歩兵オ二百六十三隊「カモルタ」島到着
八、三	旅団長の隷下に入り北部の防衛に任ず 方一三五兵站病院到着
一〇、一五	旅団長の指揮下に入る 病院開設 旅団砲兵隊到着
昭一、九、二〇、二一、二七 二、三	旅団長の隷下に入る 「カモルタ」島附近方一次対空戦参加、戦死者兵三名 旅団工兵隊到着 旅団長の隷下に入る

マライ三七内

(1/5)

1787

二、六	独立船工兵才三中隊到着 旅団長の指揮下に入る
一、三〇	旅団通信隊到着 旅団長の隷下に入る
二〇、二、七	輸送船スマトラ島「タミアン」河口に於て遭難、戦死、生死不明准士官一、下士官兵六
四、九	戦死確認
三、二六	輸送船、北緯十一度、東経九五度五分遭難、生死不明持枝三、下士官兵三
九、一四	戦死確認
五、一〇	独立歩兵才二百六十四大隊主力約四五〇マライに転用
五、一五	カモル夕島上空に飛来せるB24一機撃墜
五、二二	輸送船大ニコバル島南側に於て遭難
九、一四	生死不明持枝一、下士官兵四
五、三一	戦死確認 旅団長佐藤少将独立混成才三十五旅団長に補せらる
六、一四	陸軍大佐皆伝武久補独立混成才三十七旅団長 佐藤少将、新任地「アンダマン」に拘け出発

年月日	概 要
昭三〇、六、一四	新旅団長着任
七、七	「カモルタ」島附近に二次対空戦闘参加 戦死将校一、戦傷下士官兵四
八、一四	終戦
昭三〇、三、一四	馬來レンパン島に集結
二二、一、六	ニコバル諸島「カモルタ」島に於て台湾人通訳三名離隊逃亡せり 現地連合軍の協力を得て捜索するも発見するに至りおして、部隊はマライフレ ンパンレ島に移駐を命せられたるにより生死不明者として報告済
二二、六、三〇	主力 大竹港上陸
歴代部隊長名	
一、 少将	佐藤 為徳
二、 大佐	菅 伝武 久
部隊事情精通者	
本島原三原市本町	陸軍少佐 水野 勇
大阪市阿部野区柳池町ニ丁目三一番地	陸軍大尉 曾根 忠 康
滋賀県神崎郡入幡村大字新宮八七二番地	

青森県東津軽郡筒井村大字次田字丑川六八番地

陸軍大尉 出 路 良 吉

陸軍准尉 木 村 重 成

静岡県周智郡園田村中川八二六ノ一

陸軍准尉 鈴 木 熊 男

京都府天田郡下六人部村字長田一ニ〇七番地

陸軍准尉 高 橋 敬 二